

週替わりで一息！

第2031例会（第42版）

今回の二十四節気・七十二候（にじゅうしせつきしちじゅうにこう）

立夏（りっか） 夏のきざしがあちこちに現れる時期です。街の中をさわやかな薫風（くんぷう）[初夏、新緑の間を吹いてくる快い風（こころよいかぜ）] が吹き抜けていく頃。一年のうちで、もっとも過ごしやすい季節です。夏が立つと書くことから夏の気配が感じられる時期を指し、春分と夏至の中間頃に位置し、暦の上では立夏から立秋の前日までが夏と考えられています。

初候「五月五日～五月九日」 鼃始鳴（かわずはじめてなく） 19

「蛙が鳴き始める」 啓蟄の頃にはすでに冬眠から目覚めていた蛙が、元気に活動し始める頃。オスの蛙の鳴き声は、メスの蛙を恋しがって鳴く声だともいわれています。節句の菖蒲（ショウブ）の花は円柱形で華やかな花菖蒲（ハナショウブ）とは別物。端午の節句は五月の端の午の日。呪力（じゅうりょく）のある菖蒲を湯に浮かべ邪気を払います。

次候「五月十日～五月十四日」 蚯蚓出（みみずいずる） 20

「みみずが地上にはい出る」 冬眠していたミミズが土の中から出てくる頃。他の生き物は「啓蟄」の頃に出てきますが、ミミズはマイペースに活動を始め、土を肥やしてくれる影の努力家です。豊穰（ほうじょう）な土の証、ミミズが動き出し、作物や花の種苗を植えるのに忙しい時期となります。

七十二候で楽しむ日本の暮らしより



「本日4月28日の木曜日」「加賀RC 三国RC合同例会・懇親会！」～長生殿～



■合同例会 18:30同時点鐘



三国RC幹事 三国RC会長 加賀RC幹事 加賀RC会長 委員会報告 親睦の後は

